

刑事事件の被疑者は実名でも、無法大企業は匿名報道？ 大手商業メディアのダブルスタンダード（二重基準）ともいべき報道ぶりです。

「赤旗」は逆、刑事事件は匿名が原則、ただし公人や法人、政治的事件は例外です。

そうした「赤旗」の報道姿勢が「特筆に値する」と評価されました。

昨年、日曜版編集部が『「ブラック企業」を社会問題化させた一連の追

「特筆に値する」実名報道

及キャンペーン報道」でJ CJ（日本ジャーナリスト会議）賞を受賞したのです。理由はこうです。

「ブラック企業追及は」当初は『しんぶん赤旗日曜版』の独自報道だった。だが、次第に社会問題化するにつれ、一般紙も追随し、政治や行政を動かした。多くのスクープや連載などの長期にわたるキャンペーンで

『ユニクロ』『ワタミ』など、具体的に企業名をあげ、過酷な労働実態を追及し続けた『しんぶん赤旗』の報道姿勢は特筆に値する」

作家の江上剛さんは、「実名報道」の意義をこう強調しました。

「ブラック企業は、デフレ時代の『成功モデル』として持ち上げられ、たところも多く、マスメディアも批判しにくい。

そのなかで日曜版が企業名を出して報道した勇氣は、尊敬に値します」

大企業の「実名報道」をめぐるのは、こんな話があります。

2009年12月、大手化粧品会社の資生堂の非正規切りに対して、女性労働者たちが反対の宣伝行動を銀座で行いました。「赤旗」は「資生堂に女性怒る 東京で座り込み『派遣切り許せぬ』」と報道。ほとんどのメディアが黙殺するなか一つの全国紙だけが『子供にプレゼント買えない』

労組 雇い止め撤回訴え」と伝えました。しかし、記事に「資生堂」の文字はなく、「銀座の大手化粧品会社」とあるだけでした。

